

自分の音楽をつくろう

[指導の概略]

まず、音階を選んで旋律をつくり、歌詞を付けてみたり、その旋律に副次的な旋律や和音を付けて、イメージをもって創造的に音楽をつくる。

また、気に入ったコード進行から、曲をつくることにも取り組む。

[歌をつくろう]

教科書では、ハ長調を用いた創作から始めたが、その後、イ短調でも同様な創作を行いたい。

①旋律をつくる

イ短調を用い2小節の旋律(メロディー)をつくってみよう。



②歌詞をつける

つくった旋律に歌詞をつけてみよう。旋律を先につくったため、言葉のリズムやアクセント、イントネーションが、旋律の動きと異なるところが出てきたら、旋律を変えてみよう。



③コード(和声)進行から歌をつくる

この実習では、気に入ったコード進行を徹底的に書き出すことが重要である。それらのコード進行に旋律をつける実習を、何回も繰り返すことによって、自然に創作ができるようになってくる。

教科書(P.81)にある、和音の進行と終止形も参考にさせたい。

[アンサンブルに編曲しよう]

2部合唱をつくるため、まずは教科書にある2部合唱の曲を調べてみる。主旋律と副次的な旋律との関係は、3度や6度を中心とした音程で書かれ、和音の構成音が多く用いられている。

①やさしい2部合唱をつくろう

「And I Love Her (p.14)」「365日の紙飛行機 (p.10)」「雨にぬれても (p.18)」「遠くへ行きたい (p.19)」「朧月夜 (p.20)」「われは海の子 (p.20)」「右から2番目の星 (p.37)」「コンドルは飛んで行く (p.38)」「さらばジャマイカ (p.40)」「Down by the riverside (p.44)」「早春賦 (p.51)」は、簡単な2部合唱で書かれている。

2声の音が、教科書(p.80)にある「完全協和音程」「不完全協和音程」「不協和音程」のいずれであるかを調べさせ、創作のヒントにさせたい。

②別の旋律を重ねよう

「涙そうそう (p.12)」は、[lalala]のパートが独立して動いている。「もみじ (p.21)」は、主旋律パートを入れ替え、ハミングを重ねて、「冬景色 (p.21)」は、独自の動きをもっている。「美女と野獣 (p.36)」は、一部追いかけてしている。「おおシャンゼリゼ (p.41)」は、一部追いかけてしているところがあり、対旋律を[ルルル]で歌わせたり、旋律の上にハモリパートを重ねている。

他にもいろいろな曲における2声部での音の重ね方を研究し、自らの創造的な創作活動の糧とさせたい。

③器楽アンサンブルをつくろう

いろいろな楽器のもつ特徴を考えつつ、旋律・対旋律を演奏する楽器、ハーモニー担当楽器、ベースラインを演奏する楽器、リズム楽器などを決めさせる。その後、一人一人がイメージをもって音楽と向き合い、創作に取り組ませたい。